

参考資料1

令和5年(2023年)7月12日
 高齢者計画・介護保険事業
 計画策定部会
 高齢者いきいき課

ロジックモデル別案

場所	案	案の意図
基本理念	誰もが安心と希望をもって歳を重ねられる、未来につながるまち	(資料1のとおり)
	誰もが安心と希望をもって自分らしく歳を重ね、未来を描いていけるまち	「自分らしく」というキーワードは地域包括ケアシステムの根幹をなすものであり、現行計画から変わらず大事にしたいキーワードとして残すパターンも考えました。後半については、「自らの意思で未来を描いていけるまちをつくる」という方がインパクトがあり、地方自治の本旨にも合致するのかと考えました。
柱2	やりたいこと、 なりたい自分をあきらめない環境づくり	第2回部会で印象的だった「あきらめない」というキーワードを使いました。 なお、ラストの「●●づくり」については、3つの柱のコントラストを明確にすることを意識しています。
	やりたいことができ、なりたい自分になれる、『いつまでも輝くことができる』環境づくり	「あきらめない」という表現について、「今の自分を受け入れながら程よく幸せに生きていく」というスタイルもあるのでは？という視点が内部の検討で提示されたため別案を作りました。 幾つになっても、どのような身体状況になっても、誰もがプラス思考になれるような表現を意識しています。
C13 アウトカム②	再自立が可能な方に確実に機会が提供され、	「改善の可能性についての適切なアセスメント」 →「再自立に向けた情報提供や勇気づけ」 →「本人が望むなら、再自立につながるサービスへ」というプロセスをしっかりと踏んでいくという強い決意表明を込めた表現です。 (最終的にサービスを選択するのは本人の意思ですが、再自立できる方にその選択肢を提示することは市の責務では？という考え方です)
	再自立への機会が提供され	「可能」「確実」という強い言葉をあえて入れると、「本人の意思に基づくサービス選択」という理念との整合性が疑われるのでは？という懸念もあったため別案を作りました。